



7 月 号

平成 29 年 7 月 20 日

桜花爛漫

郷土を舞台に 夢に向かい ともに歩む学校

心豊かで
たくましい荘川っ子

- ・考える子
- ・思いやりのある子
- ・元気な子

夢を描く

校長 水口 悟

土潤いて溽し暑し (つちうるおいて むしあつし 大暑・次候)

むわっと熱気がまとわりつく蒸し暑いころ。打ち水や夕涼みなど、暑さをしのぐひとときを。(新暦では、およそ七月二十八日～八月一日ごろ 日本の七十二候を楽しむより)

□ 第3弾となる‘うちわ’の完成

今年度も、小学校と中学校の児童生徒が力をあわせ、うちわを制作しました。今年は、昨年よりも一回り大きいレギュラーサイズのうちわです。制作業者の方曰く「今年のデザインもなかなかいいですねえ」今回は、全トヨタ労連飛騨ふるさと村とユネスコエコ・パークのロゴをそれぞれの面に取り入れました。今月22日の飛騨しょうかわ・ふるさと夏まつりに、全トヨタ労連の組合員さんや町民の方々に配布します。うちわを手にした方々が、どんな顔をされるのかが楽しみです。全トヨタ労連の組合員さんと荘川町民の架け橋となるうちわになれば幸いです。「どんな風が吹くか」楽しみです。子どもたち、ありがとう！君たちのふるさとを思うパワーはすごい！



□ 新島研修における‘獅子舞い’披露

新島村教育委員会の担当の方から、3日間の内容について何度もメールが届きます。島民あげて荘川の子どもたちを迎え入れようとして頂いていることが、担当の方との会話から伝わって来ます。今年は、「新島村で荘川の獅子舞いを披露できないか」という担任と子どもたちの発案から、練習を重ねました。新島村長栄寺の住職さんにもその旨をお伝えすると「Welcomeです」と一言。「宜しければ、島の皆さんに呼びかけましょうか」というお答えでした。新島村の長栄寺の境内で、荘川の子どもたちが荘川の獅子舞いを披露したら、甚平衛さんや勘左衛門さんは、どんな思いをされるだろうか。時を超えたつながりが、遠く離れた海と山の両町村に今尚続けられていることは夢のようです。お二人のすばらしい生き方と21回目となる海の子山の子交流事業を支えてくださっている両町村の皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。交流会の報告を乞うご期待！！

□ 保育園児の‘英語活動(遊び)’

毎週月曜日に、ALTのクリスティン先生が中心となり、保育園児を対象に約30分間の英語遊びを行っています。10日(月)には、小中学校の先生方が数名、参観に出かけました。子どもたちは、ノリノリです。クリスティン先生の英語をしっかりと聞き、そして理解しています。さらに、ちゃんと英語で答えます。気がついてみると、30分間、日本語はありません。いわゆるAll・English。フルーツバスケットというゲームも、子どもたちは、英語を通して会話し活動しています。参観者の先生曰く「まるで、赤ちゃんが日本語を学ぶように学んでいる・・・」‘学ぶの語源は真似ぶ’と聞いたことがあります。子どもを取り巻く教育環境が、そうなれば、子どもたちはそのように学ぶのです。将来が楽しみです。もう一人の参観者曰く「ここにお年寄りの方も参加するといいかも・・・」なるほど。若い子どもたちとの交流、集中力、理解し席を交代する動き、何よりチャレンジ精神、意欲の向上等々。実に刺激的。一夢を描いていると、それはきっと実現します。